
魔法少女リリカルなのは～神が降りる世界～

川柳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜神が降りる世界〜

【Nコード】

N4454BA

【作者名】

川柳

【あらすじ】

魔法少女リリカルなのはの世界に送り込まれた三代絶対神、星を創りし者「神星」の化生であるリュウヤ。

彼はなのはの世界で何を行い、何を見つけるのか…

なお、この小説には独自解釈・原作破壊・キャラ崩壊があります。

「……………」

「えっ、えっと、あなたには俗に言うチートを差し上げますです」
「何かキャラ変わってるぞ。」

「……って、チート！？マジで！？ヤッハー！」

「……………」

「こほん！まず、行く世界を教えてください」

「転生先は『魔法少女リリカルなのは』の世界です」

「なんで魔王がいる世界なんだよ……………」

「諸事情です」

「は？何だそれ？」

「あなたの力のせいです」

「力？」

「あなたのは三代絶対神、『神星』の血を引いているので、あなたは三代絶対神になってもらうです」

「……………」

「三代絶対神とは、世界を創った三人の神様です」

「(。。。)」

「そして、あなたにはFF、DQ、Fate、ネギマ！？の道具全て(無制限)、魔法を全部捧げますです」

「な、なんて最強！」

「プラクス、万物の才能をプレゼント！」

「万物の才能？」

「万物の才能とは、剣術や槍術、魔法など、どんなことでもなんとなく出来て最終的にはその道を極めちゃう。的なものです」

「…………ん？話は戻すが、何で神が死んでんだ？」

「世界を救うために、犠牲になったんです…………その時に化生を造り出したのですが、行方不明になったんです」

「…………それが、俺か」

「そうです…………と、言うわけで、行ってらっしゃいんです…！」

フォン

地面に穴が開いた。

「って、……」

ヒュー

「なんでこうなる　！」

「逝ってりゃっしやいんです！」

「って、字がちが　」

こうして、俺の意識は闇に消え　ずに、そのまま魔法少女リリカ
ルなのはの世界に行った。

主人公紹介

名前

R y u y a 〓 K o u j u 〓 A r c a d i a

リユウヤ〓コウジュ〓アルカディア

種族

三大絶対神 神星

性別

男

生月日

5月24日

血液型

A型

容姿

FF?のユウナが性的に男になった感じ

好きなもの

料理

嫌いなもの

大切な人を傷つける者

魔力光

薄く透き通った青

デバイス

インフェルノ

1st 杖

2nd 刀

3rd 斧

4th 槍

Final 銃

能力

FF・DQ・ネギま・Fateの技を全て使える
アカシックレコードに接続できる(LVEX)
星を造り出せる

出身

無の空間

第97管理外世界「地球」極東地区日本

始動キ―

ヴィシユ・タル・リ・シユタル・ヴァンゲイト

年齢

9歳

身長

114.6?

体重

22.3?

魔導師ランク

総合EX

力

筋力：C(A) 【S】 『SSS』

耐久：C(A) 【S】 『SSS』

敏捷：C(A) 【S】 『SSS』

魔力：S(S) 【ER】 『ER』

気力：A(A) 【EX】 『EX』

神力：S(S) 【ER】 『ER』

幸運：ER(ER) 【ER】 『ER』

通常時はリミッター付き

()内はリミッター時での神力完全開放

【】内はリミッター100%解放時

『』内はリミッター100%解放+神力完全開放

第二話：転生

「ここは……?」

俺はあの神?に落とされてリリなのの世界に来た。

「まずは自分の状態を確認しないとな」

そう思いなぜか持っていたリュックを見ると、手紙があった。

「なにになに……」

あなたの能力とかいろいろ書いときますです

・アイテムは思い浮かべれば出るっぽいのだ

・アカシックレコードは頭でイメージすればいいかも?

・魔法とかはノリで!

・原作破壊OK!

とのことだった。

……使えねえ。

「まったく……ん?」

ふと見てみると蒼くて菱形の宝石があった。

「……ジェルシードだよな」

持つとくか……

「あとは……」

再びリュックを搜索。

「通帳(残金6000兆円ほど)・デバイス・俺のこの世界での戸籍・家の鍵か……」

なんというか、至れり尽くせりだな。

つつつか世界経済傾くし、やっぱり9歳だ……。

「デバイスを設定するか」

Hello.

「まず日本語に設定してくれ」

了解。言語を日本語に設定しました。

マスターの名前をどうぞ

「リュウヤ。リュウヤ・コウセイ・アルカディア」

マスターをリュウヤ・コウセイ・アルカディアと認証。次にデバ
イスの名前をどうぞ

「地獄。地獄を示す『インフェルノ』だ」

デバイス名、インフェルノに設定しました

「よし」

魔力気配！

「危ないな」

さつきまで俺がいたところに何か魔力の塊が飛んできた。

「誰だ？」

まあフェイトだろうけど。

「名乗る必要はありません。ジェルシードを渡してください」

「なぜ？」

「それもあなたに言う必要はありません」

オイオイ、勝手すぎるだろ。

「まったく。なんて勝手な……そうそう。その犬は動かない方が
いいよ」

「！」

明らかに動揺したな。

「気配がまるわかりだ」

警戒してるな（笑）

「それで、お前は誰だ？」

「……」

「五秒以内な。5……」

「え？」

「4……3……」

「ちよっ！」

「2……」

「フェイトです！」

「ふ〜ん。フェイトってんだ」

いい感じに引つ掛かったな。

ほら、「あっ！」て感じだし。

「フェイト！何で名のってんだよ！」

アルフ登場。

「アルフ、ごめんなさい……」

いきなりカウントダウンするもんだから焦っちゃって……」

何かここまで行くと罪悪感が出てくるな。

「で、ソッチの犬がアルフって」

「あっ！」

フェイト二回目だな。

「んで？ちゃんと自己紹介してくれるか？」

「……フェイト・テストロツサ。9歳。そっちは使い魔のアルフ」

「ふ〜ん。俺はリュウヤ・アルカディア。同じく9歳だ」

「「えっ!?!」」

ビックリしている。……そりゃそうか。

マスター。どうしますか？

「そうだな〜。戦う必要も無いし、帰るか」

因みにあの紙（誤字にараず）によれば家にはネギまとかのアイ

テムが大量にあるとのことだ

「ふ〜ん」

「あの……」

考えていると、フェイトが話しかけてきた。

「どうした？」

と言いつェイトの頭を撫でる。

なんか撫でやすい。

「あう……／＼／」

ん？なんか顔が赤い。風邪かな？

マスター……

なんかインフェルノに呆れられてる。

「そ、それで！ジェルシードを渡してくださいー！」

「だが断る。去らばだ」

まさか出会って直ぐにフラグを建てるなんて……流石マスター

「何がだ？」

お気になさらず

「んじゃ、ばいなら」

「あっ！まって！」

フェイトが言うことはスルーして家に転移した。

第二話・転生（後書き）

感想は非ユーザーさんからも受け付けております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4454ba/>

魔法少女リリカルなのは～神が降りる世界～

2012年1月14日01時00分発行